Keiba Global Front Line

競馬グローバル・フロントライン

競馬の最前線で活躍する馬や人をご紹介致します



合田 直弘

昨年の年度代表馬フォーエバーヤング（牡5）の秋の日程が決まった。様々な可能性を探った末、9月18日にベルモントパークで行われるG1ジョッキークラブGC（d10F）から、10月31日にキーンランドで行われるG1BCクラシック（d10F）に向かうことが、管理する矢作芳人調教師から発表されたのだ。日本が生んだダート界のスーパースターは、現役最後と言われる今年の秋も、ダートの王道を行くことになったのである。そこで今回のこのコラムは、米国ダート中距離路線における、今季ここまでの動向をお伝えしたい。

24年のG1ケンタッキーダービー（d10F）や25年のG1BCクラシックで、フォーエバーヤングと僅差の鍔迫り合いを演じたシエラレオネ（牡5）やフィアースネス（牡5）は、昨年一杯で現役を退き、今年の春から種牡馬として供用されている。

昨年のトップホースで、今季も現役に残った一番の大物は、ソヴリンティ（牡4）だろう。10馬身差で圧勝したG1トラヴァーズS（d10F）を含めて3つのG1を制した後、集大成となるはずだったG1BCクラシックを熱発で回避。それでも、圧倒的支持を受けて25年の全米年度代表馬の座に輝いた。

今季初戦となったのが4月18日にオークローンパークで行われたG2オークローンH（d9F）で、ここはホワトアバリオの2着に敗退。鋭さを欠いたレースぶりは、8か月の休み明けが影響したようだ。続いて出走したのが、6月27日にチャーチルダウンズで行われたG1スティーヴンフォスターS（d9F）で、ソヴリンティはここも3着に敗退。2歳時以来の連敗を喫している。この日のチャーチルダウンズは馬場に水が浮く最悪の状態（＝Sloppy）。馬場が堪えたのが敗因だろう。

同馬の次走は、8月8日にサラトガで行われるG1ホイットニーS（d9F）が有力。サラトガは、昨年夏に重賞3連勝を飾った相性の良い競馬場である。今度こそ、本来の力を見せてくれることを願う。

ソヴリンティと同じ4歳世代で。ここへきての台頭が著しいのがマグニテュード（牡4）だ。3歳2月にG2リズンスターS（d9F）を9.3/4馬身差で制しケンタッキーダービー候補となったが、球節の剥離骨折がみつかり3歳3冠を全休。戦線復帰後、G1トラヴァーズS（d10F）3着、G1ペンシルヴェニアダービー（d9F）2着の後、G2クラークS（d9F）を制し2度目の重賞制覇を果たして3歳シーズンを終えた。

今季初戦となったG3レイザーバックS（d8.5F）を制し3度目の重賞制覇後、3月にメイダンで行われたG1ドバイワールドCで、フォーエバーヤングを2着に退けて制しG1初制覇。さらに、少頭数ながら好メンバーとなったG1スティーヴンフォスターSも逃げ切り、G1連勝を果たすとともに、昨年暮れからの連勝を4に伸ばした。同馬の次走も、ソヴリンティと同じ8月8日のG1ホイットニーSと言われている。

4歳世代には、ナイソスもいる。ここまでの戦績、10戦8勝、2着2回で、連対率100%。3歳だった昨年は6戦し、G1BCダートマイル（d8F）を含む5重賞を制覇。今季初戦となったG1サウジC（d1800m）はフォーエバーヤングの2着に敗れた後、帰国緒戦となった、6月6日にサラトガで行われたG1メトロポリタンH（d8F）を4馬身差で快勝。次走は8月22日にデルマーで行われるG1パシフィッククラシックの予定。

1つ下の3歳世代の筆頭格は、言うまでもなく、G1ケンタッキーダービー、G1ベルモントS（d10F）の2冠を達成したゴールデンテンポ（牡3）になる。このあとはサラトガを拠点に、8月1日のG2ジムダンディS（d9F）から、8月29日のG1トラヴァーズSに向かう予定だ。

7月上旬時点のBCクラシックの前売りを見ると、フォーエバーヤング本命の社とマグニテュード本命の社が半分半分（オッズ5～7倍）程度。続いてソヴリンティが7～9倍、ナイソスが8～9倍と続いている。